

Ⅲ. 新学際プロジェクト

～超高齢化を迎える都市に要求される「移動の質」の研究

PL	土井	健司	(香川大学工学部教授)
	長谷川	孝明	(埼玉大学大学院教授)
	小林	成基	(自転車活用推進研究会理事長)
	杉山	郁夫	((株)日建設計シビル理事)
	溝端	光雄	(東京都老人総合研究所研究副部長)

学際研究の重要性を指摘した昨年度実施のH971プロジェクトにおいては、1)多層的・多領域な視点への意識的転換、2)徹底した人間社会の動向把握に基づくシステム創成と要素技術の開発、3)将来ニーズを先取りする先見性と創造性の発揮、が提案されている。本研究ではこうした提案を受けて、超高齢化を迎える東京圏を対象として、高齢者を標準とする「移動の質」のあり方とそれに不可欠な技術・制度およびシステム創成に関する検討を行ったものである。

プロジェクトにおいては、まずQoLに関わる多面的な価値観、活動ニーズ、交通改善要望を含む包括的なライフスタイル調査を実施した。その結果に基づき、派生需要として移動の位置づけを見直すべき時期にきており、1)高齢者の移動は社会参加を通じ生活能力を維持する(命を寿ぐ)ために必要不可欠なものであり、2)それを支えるための徒歩と自動車の中間のパーソナルな移動手段が望まれること、3)そのような移動手段の普及が欧米追従型ではない新しい都市のかたちを産み出す可能性があること、を示した。